

埼玉岳連

発行所 埼玉県山岳連盟

埼玉県東松山市松葉町2-15-8

発行人 清水武甲

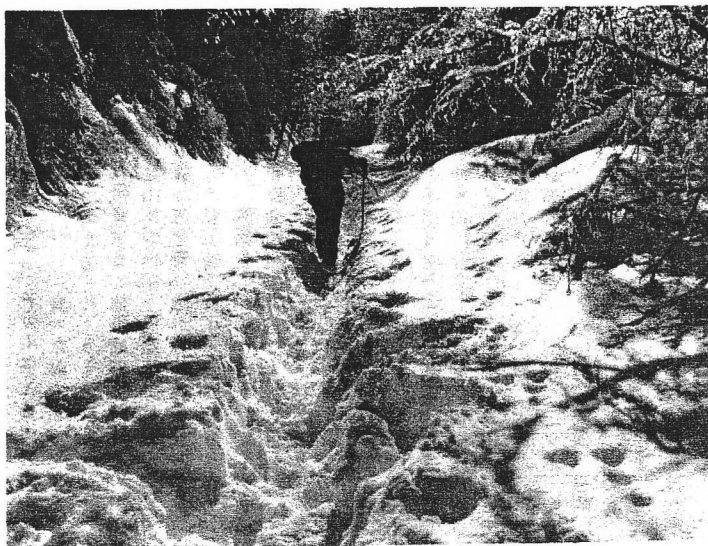
編集 広報部

第7号(1)

冬山登山に願う

清水武甲

十一月の末というのに飛騨から帰って来た友人が、近頃は、その雪の便りを聞くと、冬山でまた若ほどだったと話していました。か、暗い気持ちになります。若い頃には、雪の便りが、これは私が初老をむかえてチラホラ聞ける頃になると、



たためか、また我が子がこれらの若い人々と同年輩になったからかも知れないのです。

山登りに関しては、いろいろの考え方があるようです。登山のために一命をかけても悔はないと云う若い人が居ります。その人の中にはその人なりの考えもあるようです。同感させられることもあります。しかし、それだから死んでよいということはないのです。

登山のために命をかけるなぞという安易な考えは絶対に許せないことなのです。どんな理由があっても命を捨ててよいという登山はないのです。

そのためには、現代に於ける可能な限りの準備と装備、そして事に当って最良の処置の出来る経験と技術を持つていなければならぬのです。若し、このことの一つでも持ち合せのない者は登ってはいけないうです。

『いま…帰ったよ…』と笑顔で家族や友人たちに逢える登山でなければいけないのです。いよいよ冬山シーズンです。遭難の無い楽しい登山であることを祈ります。

ジャンプで飛躍

三期目の役員

昭和四十九年より二年間、県岳連の運営に当る新役員は四月の総会で、全役員が留任ということで三期目のスタートを切りました。

清水会長、野井理事長のもとで、また一歩前進して欲しいと思います。

なお、六月十六日の理事会の席上、田村雄一、斉藤誠、井古田忠男、岩崎繁夫の各氏が会長委嘱理事に推薦され、地区より一名づつ選出されている理事二十三名を加えて新執行部が誕生しました。

○新役員
会長 清水武甲

第二十九回茨城国体選手決る

来る、十月二十日より二十五日まで会場を茨城県の奥久慈山系の主峰、男体山を中心として六日間にわたる山岳競技は、共に、岳人あげて声援を送って下さい。

◎一般の部

監督 久保征一 (小川岳連)
選手 岸三千彦 (浦和岳連)

監督 橋本正己 (浦和岳連)
選手 新井靖雄 (秩父岳連)

◎高校の部

監督 船戸巧進 (県立秩父高校)
選手 新井文男 (県立秩父高校)

(県立行田高校)

第1回 指導員研修会・29回 茨城国体予選会

登山全般の進歩の中で、新しい技術の向上、新しい用具の使用法、指導法等、又指導員諸氏の親密な横へのつながり等早くから研修会をとの声が聞かれたので、すが、実現がはじまり、埼玉山岳連の指導員研修会が開かれる運びとなりました。指導員諸氏には多忙の処、多数の参加を得、非常に岳連として力強く感じております。

梅雨に入った六月二十二日に白久の月ヶ峰キャンプ場においておこなわれ、午後八時半より清水会長の挨拶で始まり、野井理事長の岳連の方針、指導員としてのあり方、要望等の話しがあり、浅見副理事長の自然保護の問題、浅井氏の海外登山について、田中氏の県キャンプ場より山頂を目指す。

同日、第二十九回茨城国体選手予選会を熊倉山の会場に行い、一〇名の方が参加されました。各自二〇kgの荷を同じく計量し、登山について、田中氏の県キャンプ場より山頂を目指す。

七六名参加！

沢登り講習、研修会

去る八月二十四日午後八時三峰口駅前に集合し、大血川の東大演習林管理事務所(小屋)で座学の後、翌日は折からの台風の影響で強い雨の中を、研修会はクイナ沢で講習会は黒突剣沢でそれぞれ行なわれ、研修

しガンバリました。が体調不十分の者もあり熊倉山まで登った者六名、下山も元気に下り予選会を終りました。結果は別記の通りです。尚監督には指導委員会の中から久保征一氏にお願いし了承されております。

事務局便り

(一) 第一回理事会報告

一、昭和四十九年六月十六日(日)午前十時より
一、会場 東松山市公民館
一、出席者 野井、三浦、浅見、佐藤、加藤、田中、亀田、井古田、上原、大河原、武井、関根、三ツ木、金子、田村、久保、岩崎、横溝、斎藤、加藤、堀内(草加岳連代理)、倉田(川越岳連代理)

(二) 第二回理事会報告

一、昭和四十九年七月十四日(日)午前十時より
一、会場 東松山市公民館
一、出席者 野井、浅見、加藤、井古田、新井、田中、田部、加藤、久保、森田、島田、久保、亀田、斎藤、田村、岩崎、紫藤

協への負担金がほぼ倍額になった為、当岳連の各地区の負担金も値上げせざるを得なくなったことを了解してもらった。

(三) ハラモシユ遠征隊は五月十八日に出発し、第一信が六月八日、ギルギットより到着したむね入った。

一、議題
(イ) 八月二十四日二十五日の沢登り講習会研修会はクイナ沢で研修を黒突剣沢で講習を行うことに決定。

(ロ) 県民体育大会登山大会は会場を武甲山とし、期日は十月五日六日に決定、宿泊は武甲荘又は、浦山溪谷キャンプ場のいずれかに内定。

(ハ) 斉藤指導部長より国体選手予選会の経過報告の後、候補選手を募集。

(ニ) 去る五月の総会で日山協への負担金がほぼ倍額になった為、当岳連の各地区の負担金も値上げせざるを得なくなったことを了解してもらった。

岸三千彦(浦和) 橋本正巳(浦和) 新井靖雄(秩父) 浦和に山崎(浦和)の四君を決定したむね報告。監督については理事の中から二種指導員資格者から選出することを決議。

(三) 各部部長を選出する。
○指導部長 斎藤 誠
○副部長 新井 進
○連対部長 井古田 忠男
○事業部長 田村 雄一
○副部長 亀田 泰二
○広報部長 田中 文男
○副部長 花輪 滋実
○国体対策部長 加藤 長市郎

○自然保護対策部長 浅見 豊
○副部長 島田 寿男
○海外委員会委員長 田山 勝
○副委員長 田部 井政伸
○常務理事 野井 篤
○指導常任委員 田中 文男
○自然保護常任委員 浅見 豊
○国体常任委員 加藤 長市郎

(イ) その他として城西大学山岳部の毛呂山岳連に加盟の件了解をうる。

登山装備製造

山装舎

野井 篤

奥秩父

山小屋組合

白岩小屋	原 義恵
雲取ヒュッテ	千島 盛夫
雲取山荘	新井信太郎
雁坂小屋	山中 特市
雁峠山荘	千島 茂
甲武信小屋	千島 兼一
十文字小屋	山中 邦治
清滝小屋	両神村役場
白井差小屋	観 光 課

ハラモシユ峰空白解明

二峰直下で登頂拒まる

県岳連隊測量、調査は成果

県岳連
レスト隊長、ジョン・ハ
した。

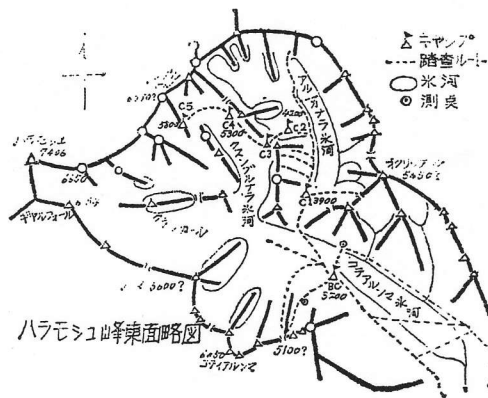
登山隊が、
去る五月
十八日か
ら約三カ
月間、バ
キスタン
西カラコ
ルム山脈
のハラモ
シユ峰（
七、四〇
六メートル）へ遠
征した。
同峰は
一九五八
年九月、

県岳連隊は、その残され
た空白の部分解明し、あ
わせて登頂をも目論み、東
面スタク谷から挑んだ。し
かし、第五キャンプ設置後
に、隊員とハイポーターが
発病、とくに肝炎で帰国す
る隊員も出て、最終の第六
キャンプと登頂を残し下山
した。

県岳連隊はだが、この空
白地域の測量、調査を行い、
東面からも、登頂は可能で
ある、という確認とともに、
ペールを脱いだハラモシユ
東面の貴重な写真、地図な
どを持ち帰った。
同隊に当初与えられた許
可は、南面のインカバル氷
河だったが、この氷河は全
面が急傾斜の氷壁で覆われ、
相当の物量（登はん用器材）
がないと不可能であったと
ころから、同隊は現地の観



光局と数度の
折衝を重ねた
結果、東面ス
タク谷の許可
が得られたも
の。この谷は
の挑戦は氷河を三本、コル
を二つもつなぐという長大
なルートであ
るため、訪れ
る隊員は、登
頂に必要と
される技術
と体力を、
十分に備
えねばなら
ない。今、
訪れる隊員
は、登頂に
必要とされ
る技術と体
力を十分に
備えねばな
らない。



冬富士の前進キャンプ地
富士吉田口五合目

中央佐藤小屋

TEL 富士山（吉田）2-1945

秩父山岳連盟

事務所 秩父市本町 2-17
秩父商工会議所内

